

折りたたみ式オムツ交換台からの転落に注意！！

独立行政法人国民生活センター

2007年10月5日

国民生活センター危害情報システム※に、デパートやショッピングセンター、公共施設等に設置されている折りたたみ式のオムツ交換台から乳幼児が転落してけがをしたとの情報が寄せられた。

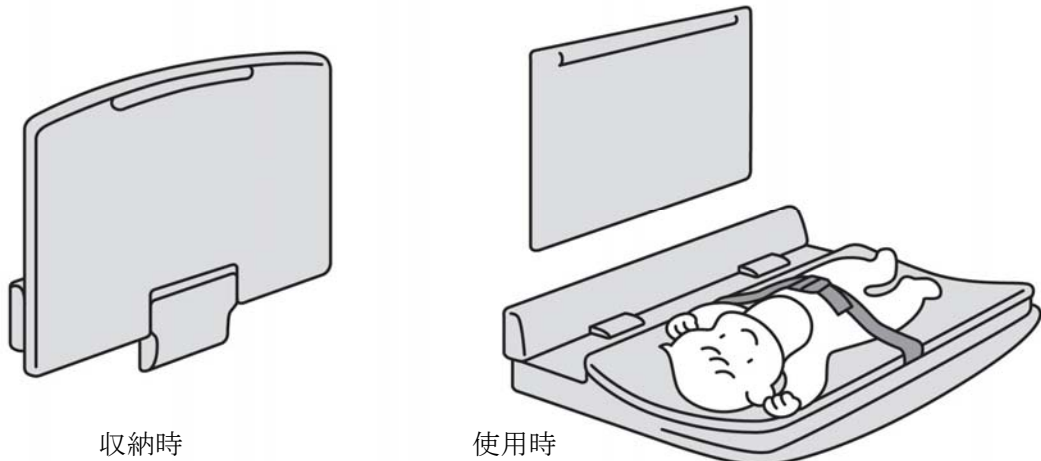
※ 商品・サービス等により生命・身体に危害を受けたり、そのおそれがある情報を、全国の危害情報収集協力病院および消費生活センターからオンラインで収集し、その分析により、消費者被害の未然防止・拡大防止に資するために役立てることを目的として作られたシステム。

【事例の概要】

ショッピングセンター内の多目的トイレ内にある折りたたみ式のオムツ交換台に4ヶ月の子どもを寝かせベルトもしていたが、オムツを交換し母親もトイレを使用して洗面台で手を洗っている間に、子どもが落ちて頭蓋骨骨折をした。洗面台はオムツ交換台に背を向ける位置にあった。
(事故年月 2007年6月)

1. 製品の構造

事故品は、デパートやショッピングセンター、駅や公共施設等の赤ちゃん休憩室やトイレの壁に設置されている折りたたみ式のオムツ交換台で、ベビーシートなどとも呼ばれている。母親が立ったままオムツ替えができるように、約80cmの高さに取り付けられている。折りたたみ式であるためベビーベッドよりも場所をとらず、狭いトイレの個室にも設置できる。最近では、車椅子やベビーカーごと入室できる多目的トイレが増えていることもあり、施設内サービスの一環として普及している。



何種類かの製品があるが、転落事故が起きたのは、シート部分が横向きで柵のないフラットなタイプのもので、8年前に設置された製品である。その後、モデルチェンジ製品も出ており、現在は頭部が壁に接した向きのもことや、身体が浅いくぼみに入るように作られているもの、周りに柵があるものもある。

2. 危害情報システムに寄せられた事故事例

全国の消費生活センターに寄せられた事例は前述の1件のみであったが、危害情報収集協力病院から寄せられた事故情報には、オムツ交換台、あるいはオムツ交換用ベッドからと判断できる転落事故が2007年9月26日現在18件寄せられている。(内容については別添資料参照)

3. 保護者への注意

メーカーは、オムツ交換台はあくまでオムツ交換のみを目的とした製品であるとしており、オムツ交換以外の用途には使用しないこととしている。

乳児は月齢が低く動かないからまだ大丈夫と想着いても、ある日突然動き出したり寝返りを打ったりする。動く力は思いのほか強く、どのような動きをするか予測ができない。簡単なベルトでは固定できないこともある。オムツ交換台は乳幼児を連れた保護者にとって便利な製品ではあるが、利用はオムツ交換時だけとし、極力目や手を離すことのないよう注意したい。

4. 業界への要望

オムツ交換台は、業界側からすれば「オムツ交換専用台でありそれ以外の用途には使用しないように注意表示をしている」製品であるというが、利用者からすれば、トイレ内にあれば自分の用を足したり兄弟の用を足させる間、乳幼児を寝かせておくことは通常行われている使い方であろう。「ベビーシート」というネーミングが使われていたり、身体拘束具(ベルト)もついているため、ベビーベッドのように少しの間赤ちゃんを置いておいても良いような印象を与える。

また、今回事故が起きた多目的トイレは、洗面台を使う際にオムツ交換台に対して背を向けるような配置になっていた。トイレで手を洗うなどという行為は普通に行われることであり、設置施設は設計の段階で配置に気を配る必要がある。メーカーも安全を考慮したアドバイスを行う必要があるであろう。同様に、乳児が滑り落ちないように壁との隙間を計算に入れるなどの工夫も必要であろう。

今回事故が起きた、柵などのないフラットなタイプは、既にモデルチェンジがされており新たに設置されることはないであろうが、まだ既存のものを使用している施設はあるので、事故防止のためにも、設置施設に対してはより安全性の高い製品への変更を早急をお願いしたい。

乳幼児を対象とした製品では特に、注意書きや警告表示のみで対応するのではなく、そもそも事故を起こさせない構造と設置状況が伴っていることが重要である。併せて、保護者が安全性や利便性に過度な期待を抱かないようにより一層の工夫を望む。

●要望先

経済産業省商務情報政策局製品安全課

●情報提供先

内閣府国民生活局消費者調整課

〈本件連絡先〉

独立行政法人 国民生活センター 相談調査部危害情報室

TEL 03-3443-6223

FAX 03-3443-6209

【別添資料】

国民生活センター危害情報システムの病院危害に寄せられた 18 件の事故内容

被害者の年齢

| | |
|-----|------|
| 0 歳 | 12 件 |
| 1 歳 | 4 件 |
| 2 歳 | 1 件 |
| 3 歳 | 1 件 |

危害の程度

| | |
|-----|------|
| 軽症 | 15 件 |
| 中等症 | 3 件 |
| 重症 | 0 |
| 重篤症 | 0 |
| 死亡 | 0 |

危害部位

| | |
|--------|------|
| 頭部 | 16 件 |
| 顔面 | 1 件 |
| 口・口腔・歯 | 1 件 |

危害の内容

| | |
|--------|------|
| 骨折 | 2 件 |
| 打撲症・挫傷 | 14 件 |
| 刺傷・切傷 | 1 件 |
| 頭蓋内損傷 | 1 件 |

主な事例

【事例 1】

デパート内のトイレでオムツ交換をしようとしていたところ、赤ちゃんをおさえるベルトが外れて 1m くらいの台から転落した。後頭部を打撲し救急車で来院した。

(事故年月 2006 年 6 月)

【事例 2】

ショッピングセンター内の高さ約 70cm のオムツ台より転落した。顔色が蒼白なため救急車で来院した。

(事故年月 2006 年 5 月)

【事例 3】

デパートのオムツ替えコーナーでオムツ交換後、オムツを捨てようと後ろを向いた間に、約 1m の高さからコンクリート床に落下し頭部を打撲した。備え付けのベルトの間から腕肩が抜けて落下した。

(事故年月 2006 年 3 月)

【事例 4】

デパートのトイレでオムツの交換をしていた際、寝返りを打って約 1m の高さの台から転落して頭部を打撲した。

(事故年月 2006 年 3 月)

<参 考>

業界等の動向

最近は、ショッピングセンターだけでなく、公共施設や駅などにもオムツ交換台が設置されているところが増えた。多目的トイレの設備も充実されつつあり、乳幼児を連れた外出にも便利な環境になった。製造業者等も工夫を重ね、省スペースでも使いやすく、清潔に使える折りたたみ式の製品を開発し、スマートで清潔感のあるネーミングもされている。

折りたたみ式オムツ交換台を製造、設置しているメーカー及び販売店では、経済産業省と相談の上、相応の対策を講じている。業界では、あくまでも製品に問題はなく子どもから目を離した利用者の不注意であるとの見解であるが、事故防止対策のために警告ステッカーを作成し、オムツ交換台を設置している事業者や公共施設に送付しオムツ台に貼付することを依頼している。また、警告表示の徹底のために、関連製品のメンテナンスや営業の際に警告表示がきちんとされているかのチェック・点検を行うこととしている。メーカーでは、耐用年数が過ぎている製品は新型への買い替えを勧めているが、設置施設等はいくまでサービスとして設置しているものであるため、買い替え等は当該設置施設の判断による。

また、経済産業省からは、商業施設等に対し、業界団体を通じて、警告表示の徹底と点検・メンテナンスへの協力と設置管理責任を促す旨の要請文書を出している。

なお、これは消費者が購入する製品ではないため、消費生活用製品安全法に義務付けられた届け出義務はないが、消費者がよく利用する製品であること、乳幼児に用いるものであること、万が一転落事故が起きた場合非常に重篤な事故となる恐れがあることなどから、経済産業省では今後事故情報を注視することとしている。

専門家からの助言

日本小児救急医学会理事長 市川 光太郎氏（北九州市立八幡病院）

「乳児は3ヶ月～4ヶ月を過ぎると動きが活発になるので、ある日突然寝返りを打ってもおかしくはない。家庭内でも、沐浴の後に洗濯機やテーブルの上などに置いて転落した症例が見られる。乳児が動く力は意外と強いので、ゆるいベルトなどでは動く赤ちゃんを固定することはできない。オムツ交換台でオムツを交換する際も、赤ちゃんを置いてからオムツを出すのではなく、先にオムツを出すなどしてできる限り赤ちゃんの身体から手を離さないほうがよい」

<title>折りたたみ式オムツ交換台からの転落に注意！！</title>